



## 引きこもり連続セミナー特集

### 第2回「引きこもりの理解を深めるために」

講師 長谷川俊雄氏（愛知県立大学准教授）

岡本圭太氏（よこはま若者サポートステーション）

初めに、岡本氏が当事者だった頃の苦しみから、家族の理解がいかにか大切に語られた。そして人並みの体験（遊び・ボランティア体験等）の大切さや、家族以外の人との繋がりがある事が、不安の軽減化になるなどサポートされました。

次に長谷川氏から「逃げる事はいけないこと？」という問題定義がなされて、今の世の中は石橋をたたき過ぎて、失敗恐怖が多いのではないだろうか。また、忘れ物をしない学校教育が“助けて”という力をはぐくむことが出来ないのでは・・・等、現代社会の状況と構造に若者たちが影響されている。そして問題を解決しようとしなくて「嬉しい・楽しい・美味しい」体験を積み重ねること。又「まあ、いいか」のいい加減さの力（自分も相手も許す。寛容になろう）の大切さ等を言われました。

誠実に自分と向き合っている「引きこもり」の現状をどう豊かに経験するか、静かに見守っていく事が大人や社会に求められている事が、サポートなのかも知れないとわかりやすく聞くことが出来ました。今まで知らなかった、引きこもりの人の内面を少し知ることができ、いい勉強をさせて頂きました。



### 第3回「当事者の立場から」 月一の会（ひきこもり当事者） 薄永氏 吉田氏

講師にひきこもりの経験者を迎え、話をさせて頂きました。彼らはもう自分自身のペースをつかんだ上、自活出来ていることに、私達は本当にびっくりしました。

参加者のグループ討議では、最近娘さんがひきこもりになったと言うご夫婦が来られていました。同じような状態のお嬢さんがいる方が、「うちもそうでした」とお話を受けて下さったりして、やはり親の会が出来て、同じ悩みを持っている方々の「集う場」が必要だと思いました。

ひきこもり本人の悩みも深い物があるのでしょうか？同じ親として親御さんの悩み位は、少しはわかってあげられるような気がします。それよりもほんの少し、悩みを忘れてすごせる時間が必要ではないでしょうか。

### 第4回「親の会の活動紹介」

（アトム会）高久氏 （こすぎの会）佐藤氏 （不登校を語る会）仁科氏

進行役の岡本さんの挨拶から、「こすぎの会」の紹介と活動内容の話が始まり、ゆっくりした口調でいままでの活動と現在の状況を話され、ご自身の家族の話を交えながら、発足7年間の過程、現在思っていることを話されました。会場の空気が一言も聞き漏らさないように、うなずいたり、メモをしたりする雰囲気の中「あすなろ」と「アトム会」の紹介になりました。「あすなろ」からは現在の活動状況と、最近引きこもりの相談が増えているとの報告がありました。（CLCAのサポートを行ってから）最後に「アトム会」から、相模原市で20年以上の活動をし、「アトム」とは物事の一番小さい単位と言う意味で、小さい物事（とても大事な事です）からサポートしていると発表がありました。

休憩後、グループでの話し合い、その後質疑応答とそれぞれの思い、疑問、考えを出し、次回へと繋げました。

### 第5回「ひきこもりの若者の就労を考える」 講師 ハローワーク横浜担当 土屋秀樹氏

安定した就職実現の為に ・ 本人のみならず周囲が変わる事 ・ 今本人が求めていることを把握して、情報を多く与える事・・・等 若者の就労支援の現状と課題が5つの項目に沿って説明され、個々に対するきめ細やかな対応をしている事が伺われました。

本人の熱意があれば道は拓けるとの事です。又 医療・福祉・就労3つが連携を持ち、支援し続ける事が大切と話されました。

（連続セミナー終了後、市役所の「ひまわり食堂」にて茶話会が行われ、多くの方の参加があり、親御さん達の横のつながりが出来つつあるように思いました。）

